近所の農家さん

青木（あおき） 崇（たかし）さん (48)
（日の出地区）

サツマイモ苗ハウスで

青木さんは、システムエンジニアとして都内に勤務していたが、35歳で退職し就農した。

苗物を中心に生産しており特にサツマイモ苗に力を入れて、ハウスを併用し、40,000～50,000本を生産している。所属する日の出町ふれあい農産物直売所へベニアズマ・安納芋・べにはるか・関東六号など毎日1,000～2,000本を出荷している。

青木さんの生産する苗は自宅でも販売をしており遠方からも買いに来るなど多くのお客さまに親しまれている。また、近隣の保育園でも利用され、園児達は育てたサツマイモの収穫体験を毎年楽しみにしている。

サツマイモ苗の他にもナス・キュウリ・トマト・ピーマンなど蔬菜（そさい）苗や、ネギ・大豆・ブルーベリーも栽培。収穫したネギ・大豆・ブルーベリーは地元産の農産物の加工施設「ひので肝要の里」へ出荷し、ネギラー油・手づくり味噌・ブルーベリージャムに加工され、直売所で販売されている。

平井小学校の稲作体験授業も受け入れ、代かき・田植え・稲刈り・脱穀の体験を指導している。脱穀は千歯こきを使って児童自身が脱穀するのが特徴。収穫したお米は小学校で生徒にふるまわれている。

日々忙しく過ごす青木さん、2016（平成28）年にはJA東京青壮年組織協議会副委員長を務め、東京農業の発展のために尽力した。2019（令和元）年度から2年間はJAあきがわ青壮年部長として管内若手農業者同士の交流と消費者に対する地域農業の理解を求め活動してきた。

サツマイモ苗の手入れ

数々の農産物と消費者を繋ぐイベントに参加してきた経験から、「自分が育てた苗を購入して下さるお客さまを大切に思うようになった。植え付け方から栽培管理までの相談を受けることを楽しみにしている。今後は生産する苗の種類と生産量を増やし、販売を通じて農業者だけではなく消費者にも農業の大切さや農地保全を伝えていきたい」と話す。

今年度からは、日の出地区出荷部会部会長に就任した。「地元農産物の生産力の向上と販売の増加に取り組み、生産者、お客さまにとって魅力的な直売所になるような活動をしていきたい」と意欲をみせた。